

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
					授業時間数	90分×15回	必修選択	政経 新聞 公共政策	

【関連するDP・CP】 (DP=ディプロマ・ポリシー:学位授与に関する方針) (CP=カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成・実施に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5	DP-6	DP-7	DP-8
	CP-1	CP-2	CP-3	CP-4	CP-5	CP-6	CP-7	CP-8
	○	○	○	○				

【授業の概要】
この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。この講座では主にマクロ経済学に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに経済学の応用分野である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の基礎理論を学習する。

【授業の目的】(General Instructional Objective: GIO 一般目標)
中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。

【履修条件】
経済学Ⅰを履修していることが望ましい。

【授業方法】
テキストに沿って授業を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 <small>グーグルクラスルーム、グーグルフォーム、出席管理システム(レスポンス)、Yドライブを使用する予定。</small>

アクティブ・ラーニングによる授業回の有無	有
アクティブ・ラーニングの形態	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出を通じてアクティブ・ラーニングを実施する。

【到達目標】(Specific Behavioral Objectives: SBOs 個別行動目標)											
ルーブリック評価項目の内容	A-1	豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	A-5	挑戦力							
	A-2	日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	A-6	コミュニケーション力							
	A-3	論理的・批判的思考力	A-7	リーダーシップ・協働力							
	A-4	問題発見・解決力	A-8	省察力							
達成されるべき具体的行動				関連するルーブリック評価項目の達成レベル							
				A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8
①	日本が直面する経済的問題を把握し、理解することができる。			1	1	1	1				
②	経済に関する学問的知識を基に、社会現象を科学的・論理的に分析できる。			1	1	1	1				
③	経済問題に対する解決策を提案することができる。			1	1	1	1				
④	よりよい社会の創造に向けて、経済的問題の解決に果敢に挑戦することができる。			1	1	1	1				
⑤											
⑥											
⑦											
⑧											
⑨											
⑩											

【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験/授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。場合により授業外課題を筆記試験に替えることがある。	10	30	30	10								80
小テスト等	グーグルフォーム、リアクションペーパーの提出により、到達目標②③にかかわる理解が身についているかを確認する。		10	10									20
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10								100

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時間中、あるいはグーグルクラスルームやポータルシステムを通じておこなう。

【教科書・参考書等】

書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携

備考

【オフィスアワー】

火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】

担当教員の実務経験の有無	無	実務経験の内容
実務経験に基づく実践的教育の内容		なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
1	経済学Ⅱを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。 教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
2	国民所得のさまざまな概念(1)	マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について学習する。 広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を説明できる。また国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念について説明できる。広義の国民所得と狭義の国民所得の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章1国民所得をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、国民所得の概念を整理する。	120分
3	国民所得のさまざまな概念(2)	国民所得理論における三面等価の原則の概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、三面等価の原則の概念を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章2三面等価の原則をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、三面等価の原則を整理する。	120分
4	国民所得のさまざまな概念(3)	国内総生産、および名目値と実質値の相違を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、国内総生産、および名目値と実質値の相違を説明できる。	
	事前学修	教科書第6章3国内総生産（GDP）、4名目と実質をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、自分でパーシェ指数を計算する。	120分
5	均衡国民所得の決定（1）	国民所得を大きくする方法を学習する。 ケインズの有効需要の原理を学修する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、ケインズの有効需要の原理を説明できる。	
	事前学修	教科書第7章1有効需要の原理、2消費、投資と乗数効果の関係をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、消費関数のグラフを自分で描く。	120分
6	均衡国民所得の決定（2）	政府支出増減、増減税の効果を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、政府支出増減、増減税の効果について説明できる。	
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、45度線のグラフを自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容
7	均衡国民所得の決定 (3)	フィスカル・ポリシーについて学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、フィスカル・ポリシーを説明できる。
	事前学修	教科書第7章3政府支出拡大と減税の効果をよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、インフレーションとデフレーションの相違を整理する。 120分
8	国際経済学の基礎 (1)	国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を学習し、国民所得を大きくする方法を学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理を説明できる。
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、絶対優位と絶対劣位を整理する。 120分
9	国際経済学の基礎 (2)	生産可能性フロンティアと特化との関係について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産可能性フロンティアと特化との関係について説明できる。
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論をよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産可能性フロンティアのグラフを自分で描く。 120分
10	金融論の基礎	金融とは何を意味するのかを学習し、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、金融とは何を意味するのか、また金融機関の分類と金融市場の分類、貨幣、金利について説明できる。
	事前学修	教科書第8章1金融とは、2貨幣とは、3金利とはをよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、貨幣の機能を整理する。 120分
11	財政学の基礎 (1)	財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、財政の三大機能を説明できる。
	事前学修	教科書第9章1政府の経済活動、2財政をよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、財政の三大機能を整理する。 120分
12	財政学の基礎 (2) 公共経済学の基礎	経費論およびプライマリー・バランスを学習する。 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴であることを学習する。
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本の財政問題を説明できる。 到達目標①②③④に関連して、市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴を説明できる。
	事前学修	教科書第9章3日本の財政問題をよく読む。 教科書第10章公共経済学の基礎をよく読む。 120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の失敗を整理する。 120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	国際経済学の基礎 (3)	国際貿易の基礎理論として、貿易と国内市場均衡が、外国為替相場を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、国際貿易の基礎理論として、貿易と余剰の関係、外国為替相場を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章1国際貿易の基礎理論、2外国為替相場と国際収支をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、固定相場制と変動相場制を整理する。	120分
14	国際経済学入門 (2) 日本経済論 (1)	円高、円安の要因とファンダメンタルズを学習する。 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を学習する。 日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、高度成長を可能とした要因を説明できる。日本のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を説明できる。	
	事前学修	教科書第11章2外国為替相場と国際収支をよく読む。 教科書第12章1占領政策と戦後復興をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、ファンダメンタルズを整理する。	120分
15	日本経済論 (2) 講義のまとめ	アベノミクスの評価と、講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	教科書第12章2高度経済成長とその終焉、3バブル経済とその崩壊、4小泉構造改革とアベノミクスをよく読む。 初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、マクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、より上級のマクロ経済学の教科書を読んでみる。	120分